

記入例と解説

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時： 令和 〇年 〇月 〇日 午前 午後 〇時

調査者氏名： 〇〇 〇〇

I) 建築物の概要

1. 建築物の所有者： 〇〇 〇〇
2. 建築物所在地： 八尾市 〇〇町 〇丁目 〇-〇
3. 階数： 〇 階

・該当する場合はチェック欄に✓を記入。
・2項目両方に該当しない場合は、本診断の対象外になります。

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

チェック欄

木造住宅である	
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

チェック欄

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック)	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害があ	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

・該当する場合はチェック欄に✓を記入。
・1項目以上該当する場合は、「倒壊の危険性がある」と判断されます。下記「IV) 壁の割合」以降の記入は不要です。
・✓した項目の状況がわかる写真を併せて提出してください。

IV) 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。(別紙1、2を添付)

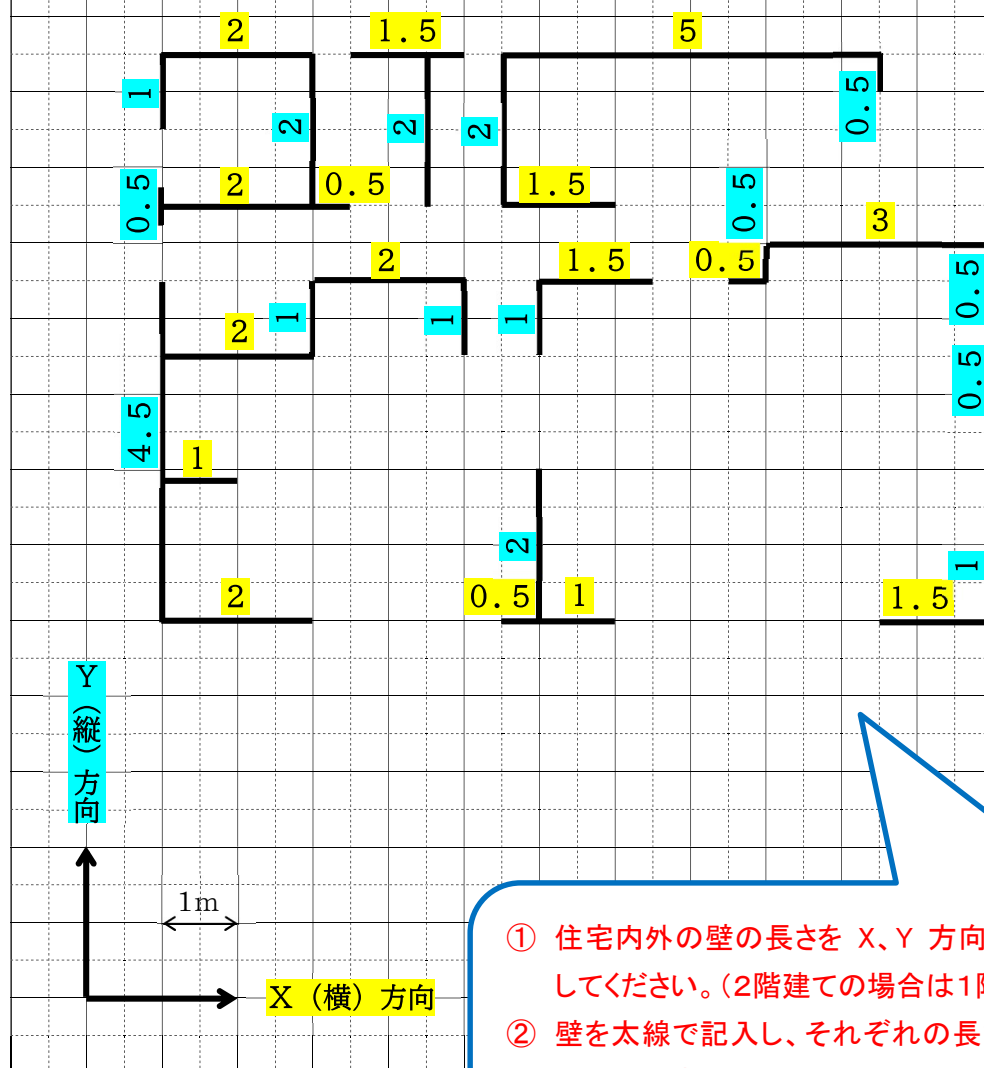
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ) 壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建面積(㎡)	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X	27.5	75	0.37	0.20	1.85
Y	20.0	75	0.27	0.20	1.35

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

壁の長さを計測して記入してください。

- ・ 1 cmで 1 mとして記入してください。
- ・ 5 mm方眼です。
- ・ 計測した長さをそのわきに記入してください。
- ・ 窓、ふすま、障子、ドアなどの開口部は記入不要です。
- ・ 2階建ての場合は1階部分のみ記入してください。



- ① 住宅内外の壁の長さを X、Y 方向それぞれ計測してください。(2階建ての場合は1階のみ。)
- ② 壁を太線で記入し、それぞれの長さをメートル単位でその脇に記入してください。
※窓・ふすま・障子・ドア等の開口部は記入不要。

(イ) 壁の長さの合計

① X (横) 方向

①
27.5 m

建物の X 方向の壁の
長さの合計を記入。

② Y (縦) 方向

②
20.0 m

(別紙 2)

建物の Y 方向の壁の
長さの合計を記入。

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ
20.0 m

平面図から、面積を㎡単位で求めて
記入。(2階建ての場合は1階のみ。)

(ロ) 面積

ロ
75 m²

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ 20.0 ÷ ロ 75 = ハ 0.27

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ
0.20 m

下表から該当するものを選んで記入。
※本解説では、平屋の軽い屋根として
選択しています。

下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数 屋根の種類	平 家	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレー ト葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ 0.27 ÷ ニ 0.20 = ホ 1.35